

# 風しんにかからないよう気をつけましょう

## 妊婦と赤ちゃんを風しんから守りましょう

妊婦が妊娠初期から中期に風しんにかかると、流産や死産の原因となるほか、赤ちゃんが、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなどという「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

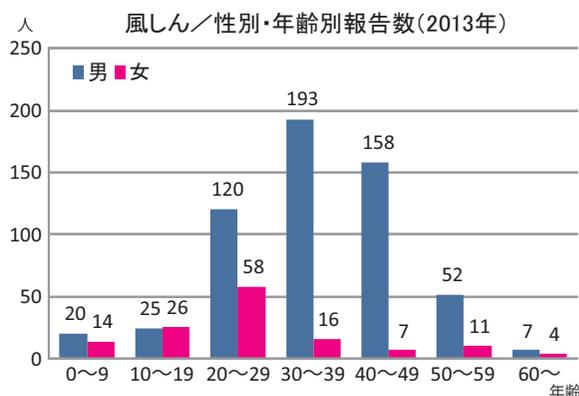
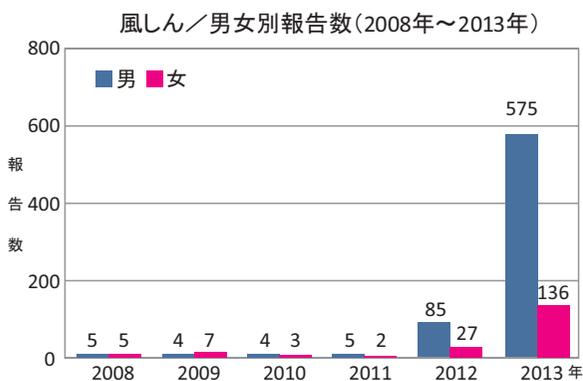


## 風しんにかからないため、抗体検査と予防接種を受けましょう

現在、20歳代から40歳代の方は、風しんの予防接種を受けていない可能性の高い世代とされています。また、予防接種を1回しか受けていない方も、その後の時間経過で抗体価が低下している可能性があります。

妊娠を希望又は予定している女性などは、医療機関で抗体検査を受け、風しんの予防接種が必要であるか否かを確認しましょう。

抗体検査の結果、予防接種が必要となった方は、医療機関で予防接種を受けましょう。



問い合わせ先 千葉県健康福祉部疾病対策課 電話043-223-2691

# 腸管出血性大腸菌 (O157 など) 感染症にご注意を!

夏場に入るとO157などの腸管出血性大腸菌感染症の患者が多く報告されます。腸管出血性大腸菌に関する予防のポイントをよく知って、感染しないようにしましょう。



## ○腸管出血性大腸菌の特徴及び症状

### 特 徴

- ◎牛などの動物の腸管内に生息しています。
- ◎O157や、O26、O111、O128、O145といった血清型、人の体内で産出するVERO（ベロ）毒素により、さらに細かく分類されます。
- ◎感染力が強いため、家族や、周りの方への二次感染が起きやすいことが問題となっています。

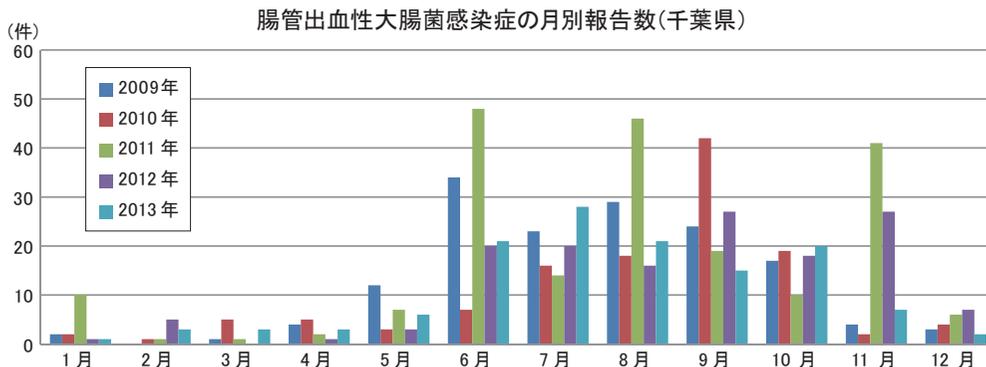
### 症 状

- ◎潜伏期間：2～14日（2～5日が最も多い）
- ◎症状：水様性の下痢や血便、発熱、嘔吐。合併症として溶血性尿毒症症候群（HUS）を発症する場合があります、重篤な場合には死に至ることもあります。

## ○腸管出血性大腸菌の感染を予防するポイント

1. 飲食の前には感染を防ぐために、かならず手を洗いましょう。
2. 肉を調理する場合は、生肉を扱う箸と焼けた肉を扱う箸を必ずわけましょう。
3. 食肉等を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。
4. 牧場などで動物・柵・土に触れた後には、かならず手を洗いましょう。

水様性の下痢や血便などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



問い合わせ先 千葉県健康福祉部疾病対策課 電話043(223)2691